

と、その背後の精神世界や地域という場との関係に注目する展示の可能性（大西万知子「感性を展示すること 英国と日本の事例から」）、そして博物館そのものの性格が国民国家の表象から多様な文化的背景をもつ人々が交流し対話する場へと変わりつつある動き（丸山泰明「21世紀における博物館の可能性 北欧で考えた二、三のこと」）が指摘された。

ご自分の「現場」での経験を交え、懇切なコメントを寄せてくださった香月洋一郎、北原系子、青木俊也の諸先生を始め、冬の寒い週末にもかかわらずわざわざご来場いただいた多くの先生や同学に心より感謝の意を表したい。皆様に暖かく見守られた中で我々のささやかな試みが充実した楽しい経験となった。

研究というのは我々にとって、個々の地道な努力と不断の反省は勿論、つねに仲間との横の交流と共同作業も必要とするものである。今回のワークショップで我々はようやく長い旅路への第一歩を踏み出したと実感している。

なお、当日の参加者は59名、内訳はCOE関係者29名、学内20名、学外10名であった。



## COE 調査研究協力者

本プログラムの調査研究活動を支援していただく、今年度のCOE調査研究協力者として追加委嘱された方です。

氏 名	所属部局・職名	所属課題班
泉 雅博 IZUMI masahiro	跡見学園女子大学・教授	『日本近世・近代生活絵引』の編纂

## COE支援事務担当

12月より下記の事務員が新しく加わりました。



佐藤 留実子  
SATO Rumiko

主に経理業務を担当します。よろしくお願いいたします。

## 編集後記

この3月で5年間のCOEプロジェクトも終了、ニュースレターも本19号をもって最終号となります。このプロジェクトの紙媒体の業績に関して本号にページを割いて紹介しました。ここにニュースレター全号も示していますが、19冊の刊行の作業に協力いただいたすべての方に御礼申し上げます。（香月）

関さんから受け継いだバトンを無事ゴールに運べてほっとしています。ご協力いただいた皆さん、記念すべき最終号の表紙を飾って下さった西村さん、創刊号から最終号まで本誌デザインを担当して下さいました町田さん、本当にありがとうございました！（藤本）

今回の最終号も、先生方や研究員の方々にご協力いただき無事発行することができました。なにより仕事を通じてたくさんの方々と交流を持てたことが一番嬉しく思います。短い期間でしたがありがとうございました。（関屋）